

バス系統ナンバリング検討会（H30.2.1開催）

1. 設置目的

訪日外国人旅行者の増加や2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催等を見据え、訪日外国人旅行者にも路線バスを利用しやすくするため、誰でもわかりやすいバス系統ナンバリングの設定方法等の検討の場を国土交通省自動車局に設置する。

(参考) 明日の日本を支える観光ビジョン（平成28年3月30日観光立国推進閣僚会議決定）

○都市交通ナンバリングの充実

- ・2016年度末までに、JRも含めた東京23区内の駅のナンバリングを完成
- ・2020年を目途に、大都市バス路線において、アルファベット・数字表記等のナンバリングを実施

2. スケジュール（案）

第1回（H30.2.1）
・過去のアンケート結果を基に意見交換
・事業者ヒアリング（取組、効果・評判、導入に当たっての障壁など）

第2回（3月上旬）
・コンサルに委託したアンケート調査、海外事例を基に意見交換
・課題の抽出

第3回（3月下旬）
5月中
・ガイドライン案の提示・議論
・ガイドライン公表

■ヒアリング内容

⇒取組、効果・評判、導入にあたっての障壁など

1. 取組

①行先番号は基本的に数字であるが、空港や太宰府など、アルファベットやピクト表示で対応。

- ・福岡エアポートバス（A、航空機ピクト）
- ・太宰府ライナーバス旅人（梅の花ピクト）



②終点及び主要経過地をアルファベット表記にて対応。※インバウンド多客施設等

- ・一般路線バス、高速バス、連節バス（BRT）
- ⇒HAKATA Station(博多駅)、Canal city(キャナルシティ)、FUKUOKA Airport(福岡空港)、HAKATA Port Int'l Terminal(博多港国際ターミナル)ほか



③郊外部から都心部へ多数の路線バスが流入してくるが、同一経路になったバス停より行先番号の統一を行っている。



④バス車内の音声案内について、エアポートバス、都心循環BRT（連節バス）は、英語、韓国語、中国語の3言語、太宰府ライナー、100円循環バスは英語、韓国語の2言語、その他「福岡タワー・マリノアシティ」等、インバウンド利用の多い路線では、主要バス停（博多駅・天神等）にて英語を中心に多言語展開をしている。

2. 効果・評判

- ①アルファベットやピクト表示・多言語案内は、インバウンド利用客にとって「わかりやすいバス」の提供ができており、利用者にとっても好評を得ている。
- ②バス路線（系統）が多く、行先番号が複数あるため、全体的に「よりわかりにくさ」を強調している側面がある。

3. 導入にあたっての障壁ほか

- ①一般路線バスは、生活路線のため既存の行先番号を使用せざるを得ない。
（新しい行先番号が受け入れられない可能性がある[乗り間違い等]）
- ②全体の行先番号を統一した場合、その後の新路線の行先番号設定が難しくなる。
- ③ナンバリングは検討するが、バスターミナルやバス停での案内（多言語対応）強化が大前提。